

「地域力共創推進コンソーシアム」の紹介

1. 基本コンセプト

社会システムのパラダイムシフトが進む中、地域の産学官連携の境界領域をサポートする機能として期待が寄せられる「民」=NPO・ボランティア・コミュニティビジネスなどなど……。それらを有機的かつ包括的にカバーする【地域力(※)】という「くくり」と「視点」が地域蘇生に不可欠という認識の下で、わたしたち地域力共創コンソーシアムは【地域力共創】を志向するコンセプトをめざします。

※：次頁参照

2. コンソーシアム構成

(1) コンソーシアム代表 有限責任事業組合(LLP)山形ふるさと企画舎 代表/ (有)SKソリューションズ 代表取締役 黒沼 貞志

(2) 実行委員会

① 有限責任事業組合(LLP)山形ふるさと企画舎(代表 黒沼 貞志)
別紙事業紹介資料参照

② AISOHO 企業組合(代表理事 菅野 美奈子)
URL：<http://www.aisoho.jp/soho/>

③ 蔵 オビハチ「灯蔵」(伊藤 りえ)
URL：<http://ojisho.com/kuraobi.html>

④ 山形コミュニティ放送株式会社(営業部長 奥山 知明)
URL：<http://www.fm762.co.jp/>

(3) 地域力倶楽部(会員制)

倶楽部会員および賛助会員

別紙チラシ案内の「規約」「募集要項」「申込用紙参照

3. 平成19年度コンソーシアム事業内容(詳細は別紙「3事業共通チラシ」参照)

「地域力共創」の実現に向けた事業企画プラン策定にあたり、そのコア・コンピタンス(核となる能力)として社会システムの緊急課題と考える「**コミュニケーション力(ネットワーク構築力)**」の蘇生と位置付けました。

いま、情報化技術(IT)の進歩とは逆行する方向で「人々のコミュニケーションの希薄化」が進行しており、様々な場面で問題が生じていると認識しています。

コミュニケーションの「目的」と「手段」を混同していることがその原因の一つにあると考えます。

それを峻別して情報化技術を捉えなおそうとする動きがあり、すでに、その表現も「IT」からコミュニケーションの「C」を含めた「ICT」といった変化に現れています。

情報化技術(IT/ICT)はあくまで手段であるとの認識の下で、私たちはコミュニケーション力の蘇生に関わる次の3事業をその目的/手段の関係を明確にして遂行します。

(1)「**One Coin 地域力 カフェ**」開催事業

<**Face To Face**> のコミュニケーション

(2)「**YAMAGATA 地域力 ステーション**」運営事業

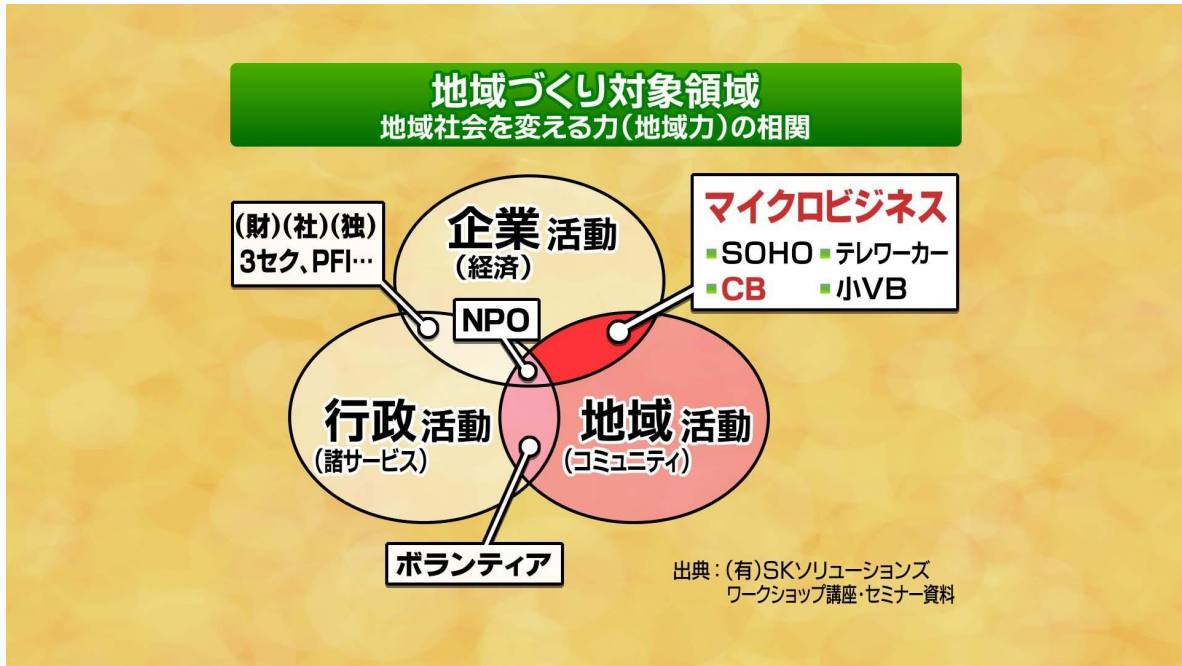
<**放送メディア**> を通じてのコミュニケーション

(3)「**地域力 倶楽部**」運営事業

<**インターネット**> を通じてのコミュニケーション

また、この3事業の関係を次頁のように整理しております。

<地域社会を変える力 (地域力) の相関>



<「地域力共創」に関わるコミュニケーション力の蘇生3事業の相関>

